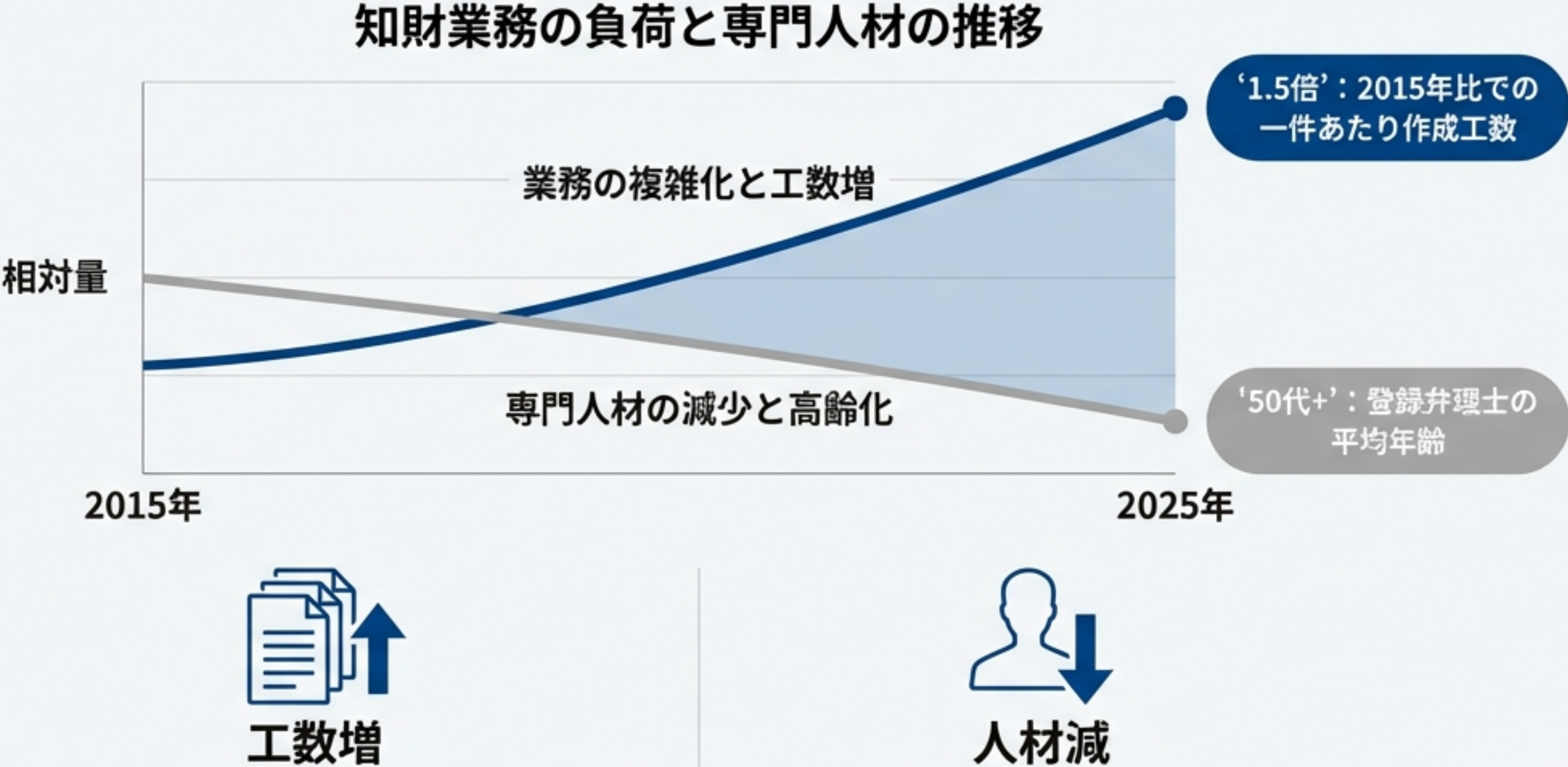


変革の触媒：知財実務の未来を拓く、 NTTドコモビジネスの挑戦

知的財産部門および特許事務所向け「知財文書作成エージェント」に関する包括的調査報告



日本の知財業界が直面する構造的課題：「2025年の崖」



熟練者の引退と先端技術の複雑化が重なり、「工数増」と「人材減」のダブルバインドが発生。
現状維持は、日本の出願品質低下に直結するリスクを孕んでいる。

経営が求める「攻めの知財」と、 現場を圧迫する「守りの知財」の乖離



コーポレートガバナンス改革は知財部門に**事業貢献**を求めるが、現場は**定型業務**に忙殺され、**戦略立案のリソース**が枯渇している。このギャップの解消が急務である。

危機を競争優位に変える、新しい知財実務の標準へ



知財文書作成エージェント

労働力不足、戦略的要請、そして生成AIのリスク。日本の知財業界が抱える三重の課題に対し、NTTドコモビジネスは明確な解を提示する。

パラダイムシフトを支える3つの柱



圧倒的な日本語精度

特許特有の複雑な係り受けや用語の統一性を、実務レベルで実現。汎用LLMでは到達不可能な品質を達成。

`国産LLM「tsuzumi」`



揺るぎない安全性

機密性の高い未公開発明データを、閉域網と国内データセンターで完結。データ主権を完全に保証する。

`閉域網・データ主権`



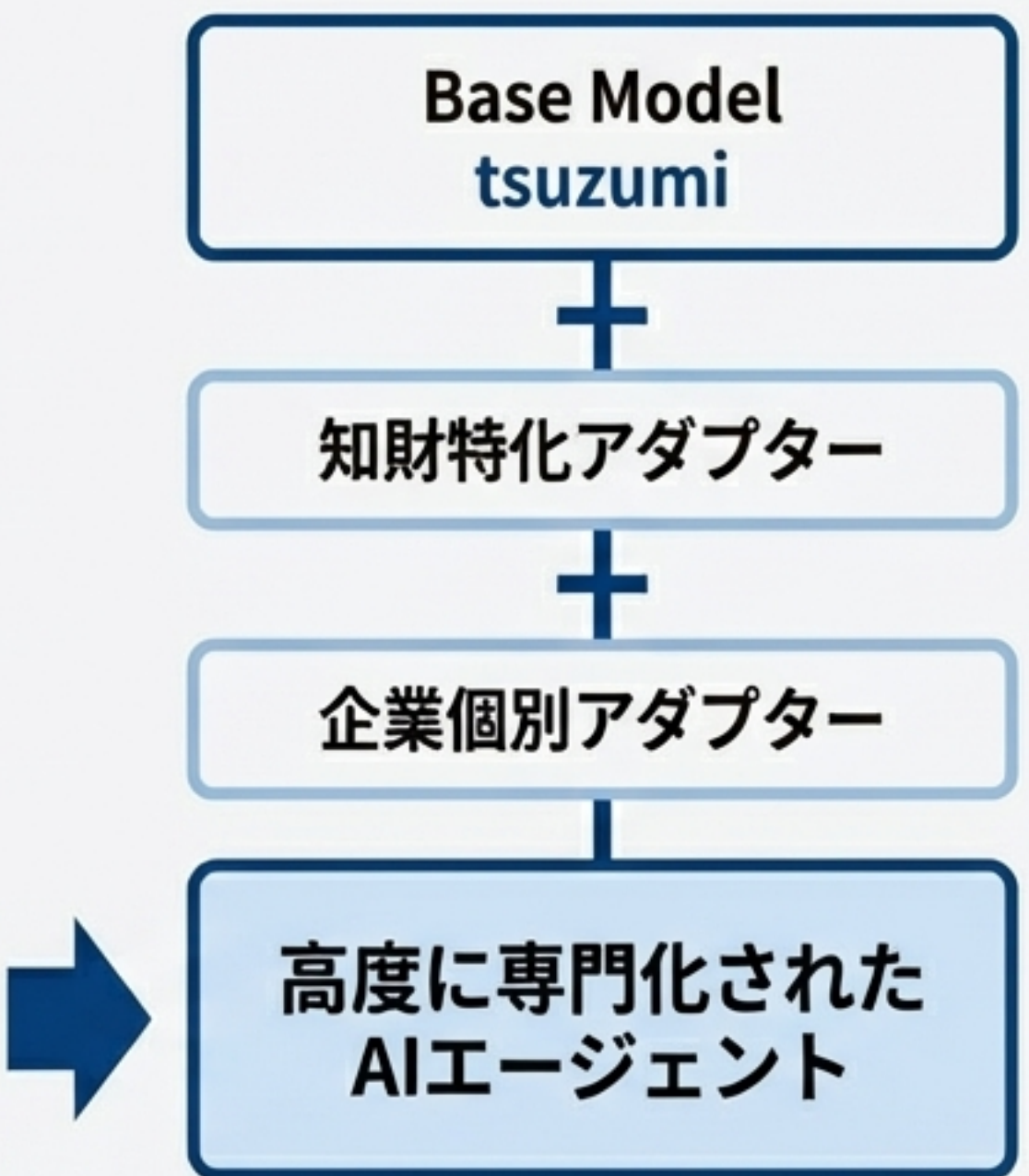
専門家との協働モデル

完全自動化ではなく、専門家の思考を拡張（Augmentation）するエージェントとして機能。法的責任と品質管理の現実解を提示。

`拡張知能
(Augmented Intelligence)`

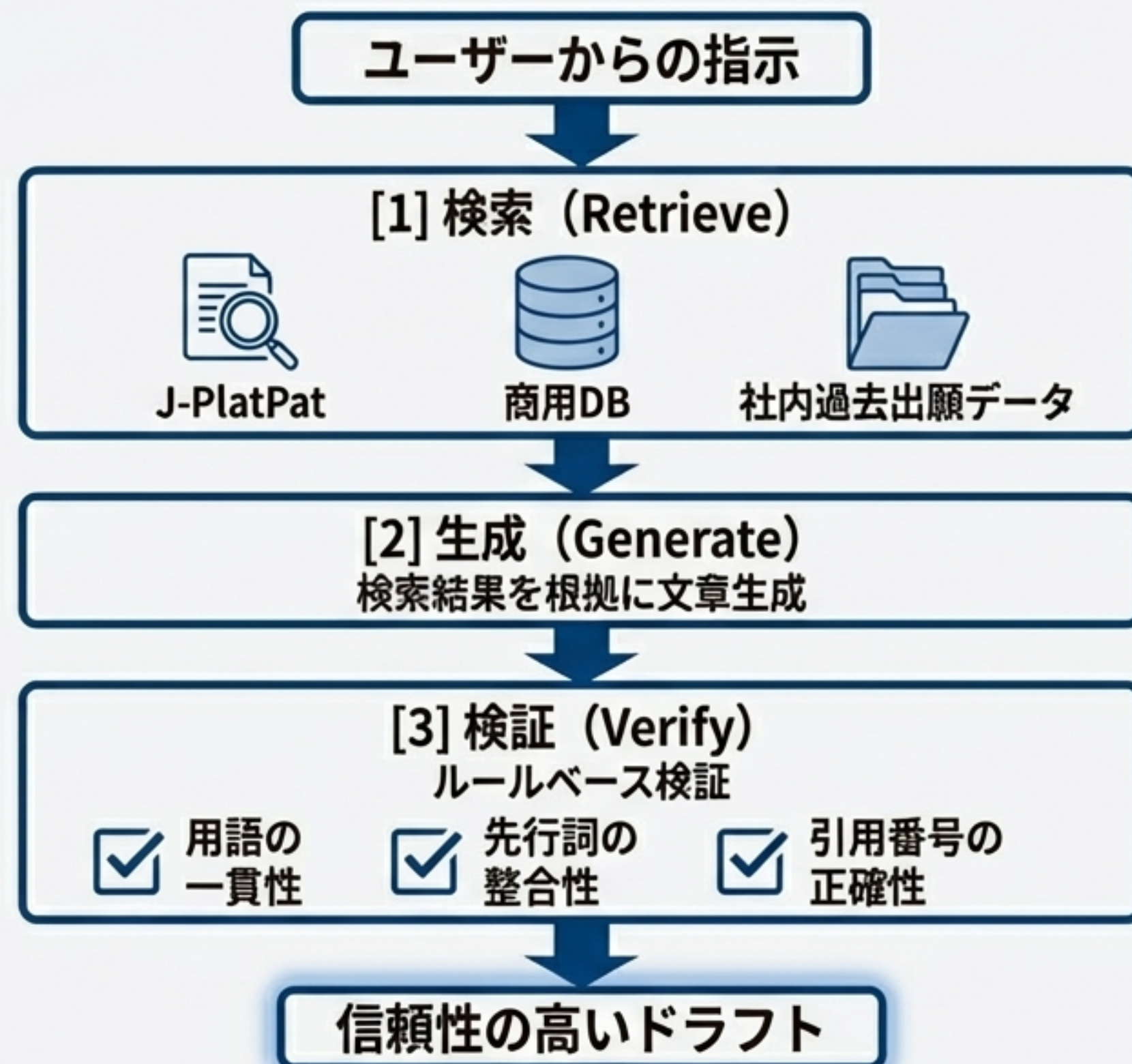
なぜ「tsuzumi」なのか：知財領域における国産LLMの戦略的優位性

Feature	国産LLM「tsuzumi」	グローバル巨大LLM
 日本語特化	◎ (形態素解析を活かしたトークナイザーで、複雑な特許構文を深く理解)	△ (Webテキスト中心の学習では、特許特有の言語の再現が困難)
 軽量性・柔軟性	◎ (7B-クラスのモデル。低コストで迅速な専門分野チューニングが可能)	✕ (巨大モデルは再学習コストが莫大で、個別最適化が困難)
 セキュリティ	◎ (オンプレミス/閉域網での動作が可能。データ主権を確保)	△ (海外法人の管轄下であり、データ・レジデンシーに懸念)



汎用性より専門性。「アダプター」技術により、低コストかつ迅速に各社の「書きぶり」を模倣し、修正の手間を最小化する。

信頼性のアーキテクチャ： ハルシネーションを抑制し、 事実に基づく生成を実現



確率論で動作するLLMの弱点を、決定論的なロジックで補完。生成の根拠を常に外部データベースに求めることで、特許実務で許されない「事実の捏造」を構造的に防止する。

知財は企業の秘中の秘：Smart Data Platformが実現する鉄壁のセキュリティ

✓ 「データ主権の保証」

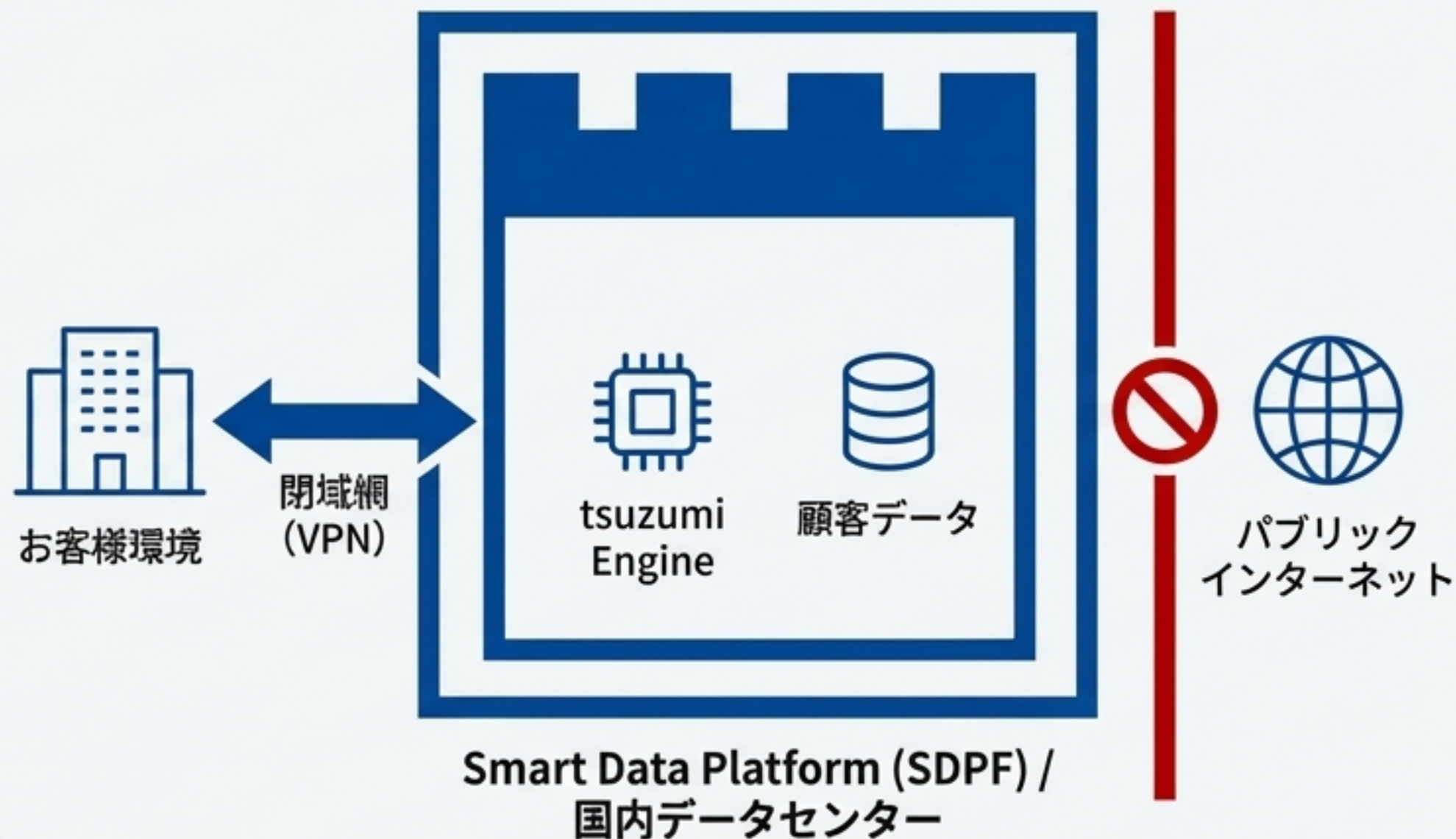
データセンター、通信、運用拠点のすべてが日本国内に完結。

✓ 「ゼロ・リテンション」

ユーザー入力データは処理後即時消去。NTT側での再学習には一切使用しない。

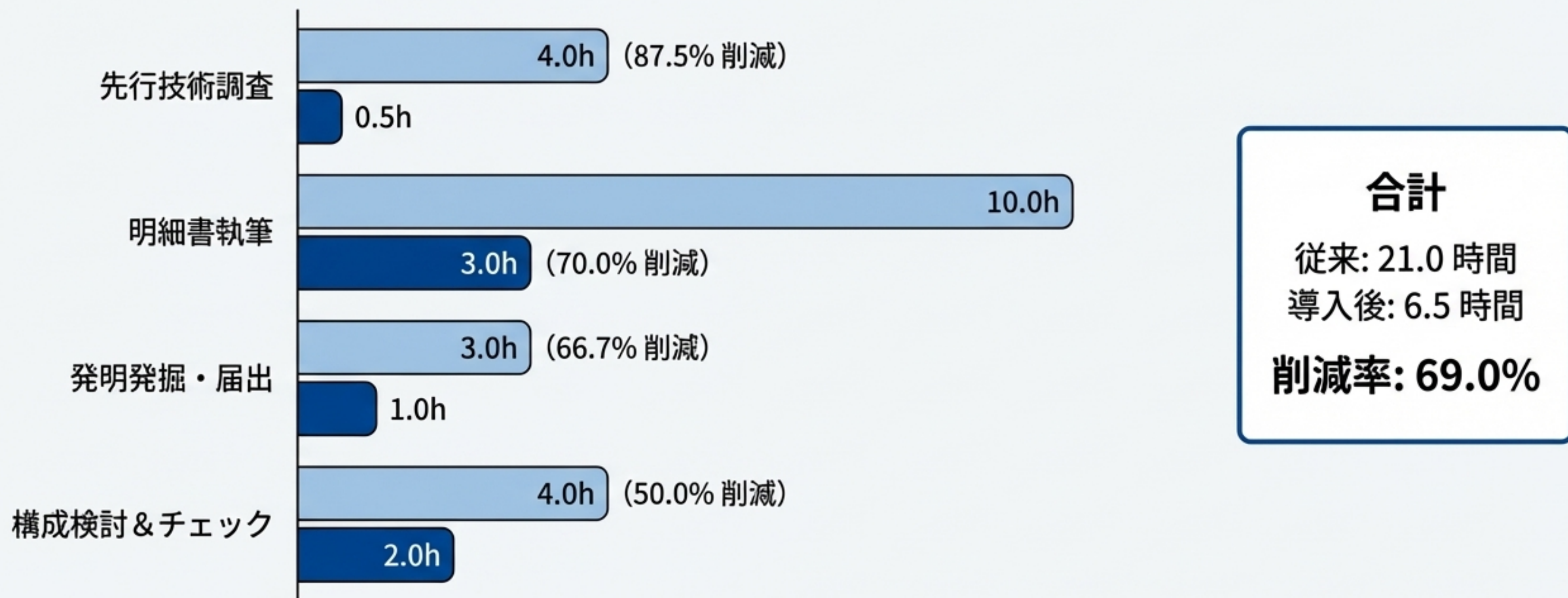
✓ 「モデルの分離」

ユーザー固有の学習（アダプター）は顧客環境内で完結し、外部に流出しない。



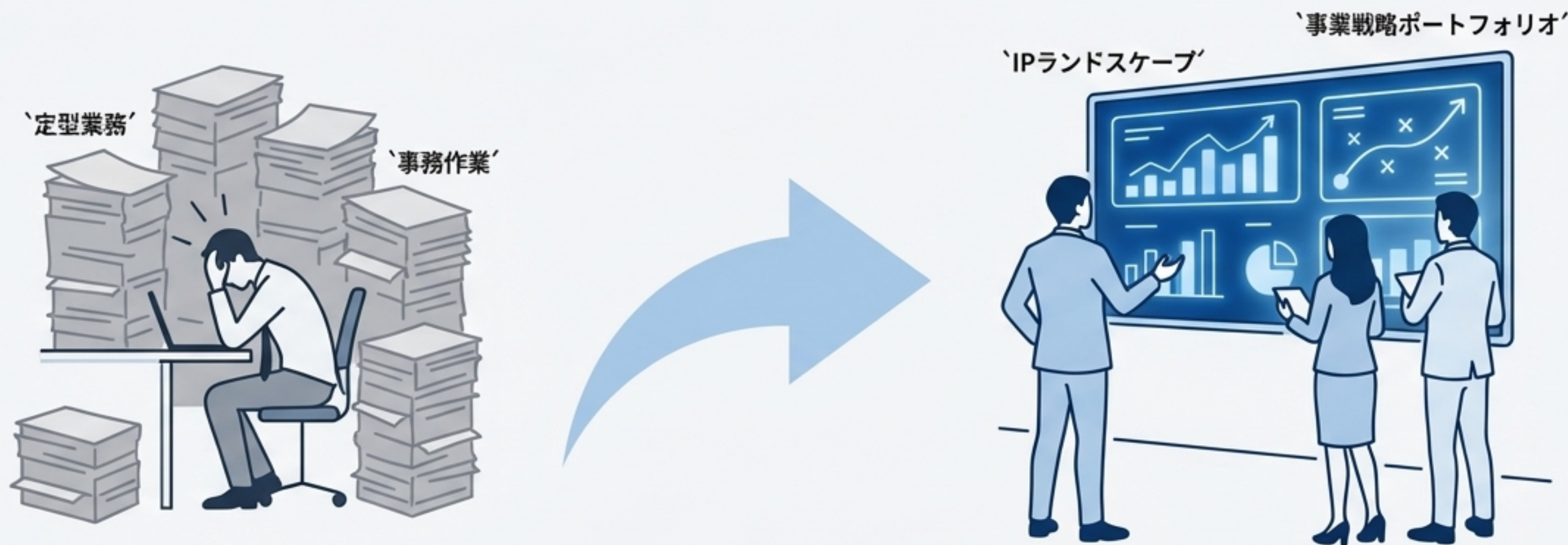
圧倒的な生産性向上：1出願あたりの工数を平均69%削減

1 出願あたり業務フェーズ別工数削減効果



先行導入ユーザー（電機・化学メーカー、特許事務所）からのヒアリングデータに基づく試算。

人間の役割の再定義：「作成者」から「戦略家」へ



- 作業時間の8割を定型業務が占有
- 受動的な手続き管理

- 浮いたリソースを戦略立案に投資
- AIのドラフトを監修・高度化する「編集者」へ
- R&D現場への積極的な関与

実務ワークフローの革新： 中間処理フェーズにおける協働事例



拒絶理由通知



引用文献との
対比分析



一致点・相違点のマトリクス

	請求項	引用文献
請求項	✓	✗
引用文献	✗	✓

反論骨子案

- 阻害要因の存在を示唆
- 構成要件の相違点を明確化
- 発明の効果の優位性を主張

補正案の提示

- 明細書【0025】の記載を根拠に、クレームを限定する補正案

弁理士は引用文献の精読と分析にかかる時間を大幅に短縮し、最も重要な反論ロジックの構築と権利範囲の最適化に集中できる。

NTTドコモビジネスの競争優位性： 「信頼のインフラ」というMoat



AI機能単体は追従可能でも、全国規模の通信インフラ、国内データセンター、そして法人顧客との長年の信頼関係をセットで提供できるプレイヤーは他に存在しない。

未来展望 I：IOWN構想が拓く「グローバル・バーチャル知財部」



超低遅延・大容量通信

世界中のデータベースや技術文書をリアルタイムで横断分析。

リアルタイム連携

3D CADデータや高精細映像を遅延なく共有。

AIによる高度支援

複数拠点間会議でのリアルタイム通訳・議事録作成・ドラフティング支援。

未来展望 II：2030年に向けた「自律型知財経営システム」への進化

現在



人間の指示に基づき、
文書作成を効率化

未来 ~2030



AIが能動的に知財価値を最大化



自動発明発掘

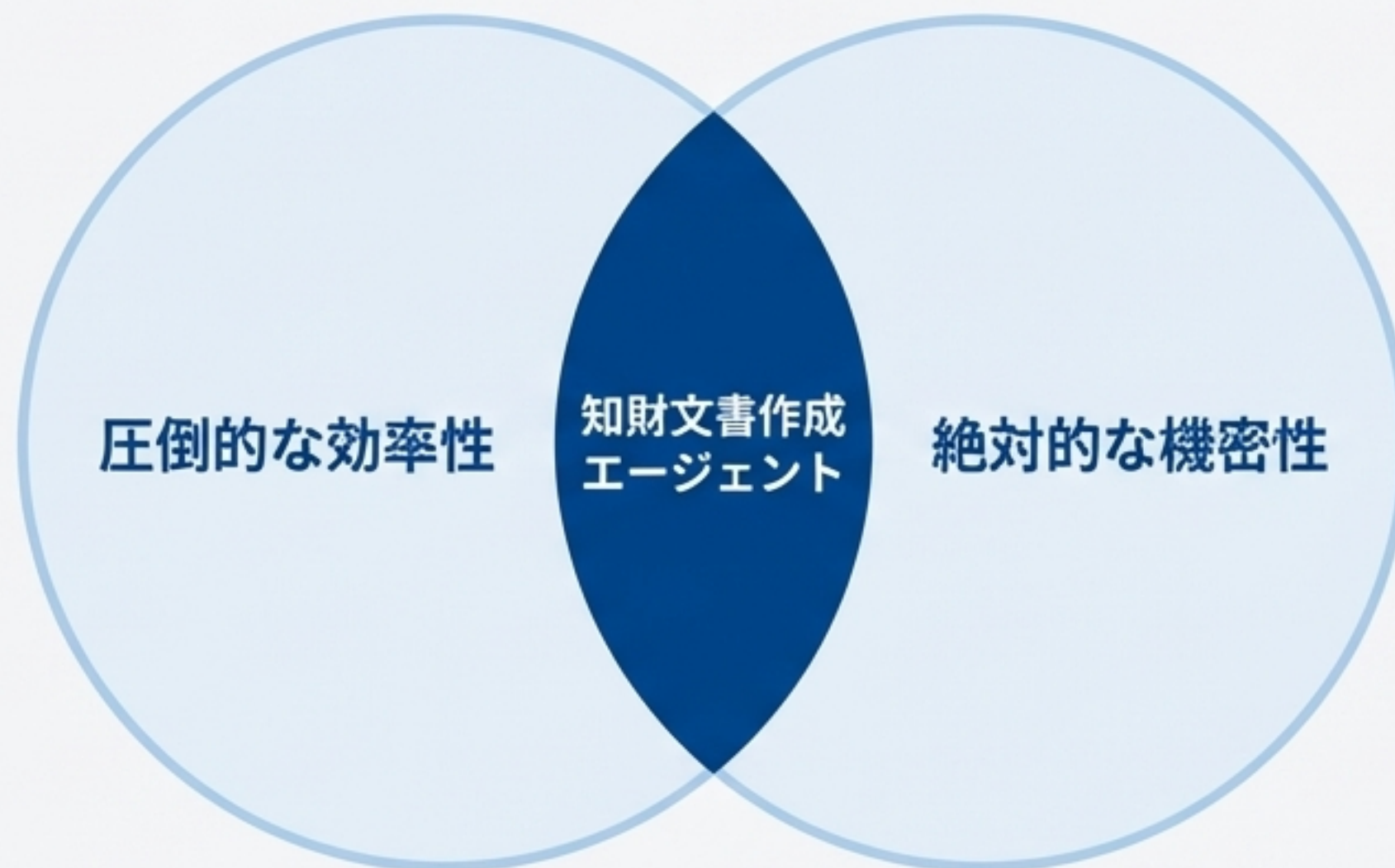
R&Dサーバーを監視し、有望な技術
シーズを検知して特許化を提案。



価値評価とポートフォリオ最適化

保有特許の活用状況を分析し、維持・
放棄・ライセンスの判断を提示。

日本の「モノづくり」を「知財づくり」で守るために



NTTドコモビジネスの挑戦は、「効率性」と「機密性」という、
かつてはトレードオフにあった二つの価値を両立させることです。

このエージェントは、持続可能な知財活動を維持するための不可欠なインフラであり、
日本のイノベーションエンジンを守り、発展させるための一石となります。